

## 表 白

謹んで阿弥陀如来、宗祖親鸞聖人、ならびに三世十方の諸仏如来に申し上げます。

本日ここに、親しく宗祖親鸞聖人のまえに坐すことを得て、全戦没者追弔法会を厳修いたします。このときにあたり、一つには過去の罪障を懺悔し、二つには現在の遇法を慶喜び、三つには将来に同朋社会の顕現を期したいと存じます。

第一に、過去の罪障を懺悔するとは、われらの宗門が、先の悲惨な侵略戦争に自ら荷担し、それを「聖戦」と呼び、「まったくおおせにてなきことをも、おおせとのみもうす」罪を犯したことであります。

実に、五逆謗法の咎逃れがたく、今更めて全戦没者の悲しみを憶念し、ここに真宗大谷派が無批判に戦争に荷担した罪を表明し、過去の罪障を懺悔いたします。

第二に、現在の遇法を慶喜ぶとは、そのわれらの罪障にも拘らず、如来の本願はその罪を私たちに知らしめ、罪に向き合い、平和への道を歩ましめるのであります。

第三に、同朋社会の顕現を期すとは、本願念仏の教法に生きる者は「四海の内みな兄弟とするなり」という浄土の莊嚴功徳をこの身に受け、死者と生者が一つに出会い、国家や民族の境を超えた「同朋社会」の顕現に向かって生きる者となるのであります。

われら真宗門徒、ここに非戦平和の誓いを表白し、ひとえに、この身とこの世の無明の闇を照らす仏の教えに随い、ともに生きあえる世界への道を歩まんことを誓うものであります。